

今日の説教のポイント<創世記 22 章 1～19 節>

聖書中で最も難解・深遠な話の一つ。読む際のポイントを記します。

①アブラハムの感情の起伏を一切記していないことに注目

思いがけない神様の命令。読む私たちは、アブラハムの驚きと苦悩を思い巡らしがちですが、聖書はそういったことを一切記しません。それはなぜかを考えることが重要です。

②アブラハムのこれまでの歩みの総決算にあたる出来事

「これらのことの後で、神はアブラハムを試された」(1)。「これらのこと」とは、これまでのアブラハムの歩み全体をさしています。私たちがどんなに「神様のなさることはむごい」と思おうとも、アブラハムはそうは思わなかった理由の一つがここにあります。

③「試された」と訳された語の元の意味を考えると

「試された」(1)と訳された語は聖書でここで初めて出て来ます。ヘブル語辞書には、「現代の意味と同じではない、証明するとも訳す」とあります。ですから、「神様は疑われたから試されたのだ」と考えていいかは疑問です。出エジプト記 15:25, 20:20、申命記 8:2, 16 などを見ると、イスラエル人のその後の歩みを考えて、あるいは見通して、行って下さった行為に用いられているからです。「試し、証明して下さい」、そう訳したらいいような原語なのです。

④今、アブラハムは神様をここまで信じるようになった！

聖書は、書かれていないことを自分勝手に推測して読み進めると台無しになります。はっきり書かれていること、特に、記されている会話の言葉が大事です。この箇所では、「わたしの子よ、焼き尽くす捧げ物の子羊はきっと神が備えて下さる」(8)という、アブラハムの言葉が大事です。私たちが聞き取るべきことはここにあります。

⑤神様はいつも私たちを見て下さっている！ だから備えあり！

「備えて下さる」(8)「主の山に備えあり」(14)の「備える」は、本来、「見る(そこから、心を用いる、気をつける等)」という意味のヘブル語です。神様がいつも見て下さっている、だから必要なものは備えられる。全てはこのことにあることを教えている話なのです！